

銀杏坂

～輝く薩摩中央～

令和3年11月23日(火) 南日本新聞

本校の農産物即売会の様子が南日本新聞に掲載されましたので紹介します。

さつま支局・右田雄二

記者の目

長い行列ができていて驚いた。さつま町の薩摩中央高校であった農産物即売会。生徒たちが手掛けたポインセチアや白菜、ヘーコンなどが並び、800人以上が訪れた。毎年楽しみにしているという70代の男性は「いつも立派な花ができていて、大切に育てているのだろう」とほほ笑んでいた。張り切って接客する高校生を取材しながら、卒業後も農業や食品加工に励み、全国を相手にして商売する姿を思い描いた。

そんなことを考えたのは、さつま町の魅力を全国に発信する地域ブランドが立ち上がるからだ。その名も「薩摩のさつま」。役場とJA北さつま、商工会、観光特産品

薩摩のさつま

協会が一体となり、統一名称を使って特産品や観光、文化などをPRして売り込んでいく。

発起人は若手の8人。代表を務める堀之内酒店店主の堀之内力三さん(48)は「ブランド力を高めていくことで、子どもたちが誇りを持てる古里にしたい」と力を込める。町内唯一の中学校、高校である宮之城中、薩摩中央高校の部活動を応援する「薩摩のさつま」の名称を入れた横断幕も作りたという。

全国で認知度を高めていくのは簡単ではないだろうが、行動しなければ何も始まらない。出身を聞かれ、「薩摩のさつま」と笑顔で応じる若者が出てくるのを楽しみにしたい。

2021・11・23(火)